

# モデル溪畔林設定に向けた取り組み

～日高地方を事例として～

日高南部森林管理署 事務管理官 松本三千代

## はじめに

森林の持つ公益的機能の高度な発揮が求められている中で、溪畔周辺を保全することによりその効果が発揮されることが期待されています。北海道森林管理局では、平成27年度樹立の「日高森林計画書」等において、溪畔林流域の設定に関する計画を盛り込んでいます。このようなことから、日高南部森林管理署管内において、溪畔周辺の森林の取扱い方法を検討する場とすることを目的として、モデル溪畔林流域設定に向けた取り組みを行いました。

## 溪畔林とは？

まず、溪畔林のはたらきについて紹介します。溪畔林とは河川や湖沼の周辺に成立する水辺林の類型の一つで、流域の中でもより上流部の河川に成立する森林のことです。その機能は、日射遮断機能、落葉供給機能などがあり、野生生物の生息場所として重要なはたらきをしていることがこれまでの研究により明らかにされています。その溪畔林を保全・再生する技術の確立が求められています。



溪畔林の主な機能

## 国有林での取り組み（関東森林管理局・茨城森林管理署管内）

「水辺林管理の手引き」 溪畔林研究会著より

前任地での溪畔林再生の取り組み事例を二つ紹介します。一つは、水際まで植栽された人工林内で上木を抜き伐りすることで、伐採後2年で溪畔林構成樹種が更新した事例です。もう一つは、谷底において人工林の皆伐後にハルニレとケヤキを植栽した事例です。植栽後4年間の成長も順調でした。こういった事例を参考にし、日高流域における溪畔林再生方法を検討してみることとしました。

## モデル溪畔林の設定に向けて

管内は北海道の日高山脈南西側から太平洋にかけて位置しており、主な河川は、新冠川、静内川、三石川、日高幌別川などがあります。国有林は流域の中でも最上流部を占めており、上流部の溪畔周辺はヤチダモやハルニレなどの天然林が多いですが、急峻な地形の箇所が多いため、下流部では平坦な河川沿いが古くから林道等の搬出路として利用されています。また、高見ダムを始めとしてダムも多く設置されています。このような中、水際まで植栽されたトドマツ人工林があり（今後間伐予定あり）、水辺から25mの溪畔域に未立木地があるなど、今後の溪畔林再生の検討の場となりうる流域として、三石森林事務所部内、三石川支流の二川流域にモデル溪畔林の設定を考察しました。



管内の溪畔林の様子

## メモ